

*永遠にきらめく青春の孤影！
若きジミーの愛の詩！



JOHN STEINBECK'S **EAST OF EDEN**

ジェームス・ディーン主演

エデンの東

ワーナーカラー/シネマスコープ ■ ジュリー・ハリス/レイモンド・マッセイ
巨匠エリア・カザン監督 ■ 原作ジョン・スタインベック/音楽レオナード・ローゼンマン

From Warner Bros.  A Warner Communications Company ワーナー・ブラザース映画

●若いファンの圧倒的アンコールに答へ・ニュープリントで

12月22(吉)より新春愛のロードショー

★お得な鑑賞券 550円発売中(一般700円・学生600円の処)

渋谷東急文化館地階

東急

レックス

407

7019

＊かいせつ

わずか三作で永遠の青春像を作りあげ、世を去った不滅のスター、ジェームス・デインの最高傑作。死後10数年たった今日なおジミーを執つたファンは後を絶たず、その根強い魅力については正月公開する運びとなつた。

アーベル賞作家ジョン・スタインベックの原作を、「アレシジメント」でエネルギッシュな仕事ぶりを示したアメリカの代表的監督エリア・カザンが、アカデミー受賞

東のエデン

■ジェームス・デイン

時を超え、世代を超えて永遠に生き続ける不滅のスター。スターと呼ぶよりはあまりにも鮮烈に生きた青春の象徴と呼ぶべきかも知れない。あの青春のきらめきとまかない孤独感も演技では無い。ジミーという一人の若者の全身から発散された青春のすべてなのだ。1931年2月8日インディアナ州マリオンに生まれ、家庭的に不安



作「渡止場」に次いで映画化したもの。出演はジェームス・デインのほかには「汚れた7人」のジュリー・ハリス、「西部開拓史」のレイモンド・マッセイ、この映画でアカデミー助演女優賞を受賞した「80歩大行進」のジョー・バン・フリード、「暴力脱獄」のリチャード・ダバロス、「ミス・ター・バルバド」のバル・アイブスなど実力派の演技陣。日本でも長い間ヒット、パレートのトップの座をゆすぶず、人々の心に親しんでしまったレナード・ローゼンマンの音楽も印象的。(上映時間1時間51分)

女思春期を逃した。54年「エデンの東」の撮影中に知り合ったビア・アンジユリに恋をしたが、宗教・国籍の違いを理由に彼女を反抗し、そして疑われた恋に悩みつづける男を青年からふけ役までと見事な演技を見せた「ジャイアンツ」69をとり終えた直後、1955年9月30日午後5時59分、愛車白いボルシェ・スパイダーと共にこの世を去った。若く24歳であった……

＊ものがたり

カリフォルニア州サリナス盆地の農場主アダム(レイモンド・マッセイ)にはふたりの息子がいた。23歳のアロン(リチャード・ダバロス)と21歳のキヤル(ジェームス・デイン)である。アロンはふるまうに美しく愛らしい青年だった。そして、その心も素直だった。キヤルは幼いころから驚くほど大人びていて、きかんの子だった。ふたりの性格はまったくちがっていた。が、ともに父親アダムを愛していた。母親はずっと昔に死んだ、ときかされていた。或る日アダムはかつての妻キャンシーがケイトという名で、サリナスに近い漁港で怪しげな飲み屋を経営したことを伝え、それはアダムが新しい仕事に熱中したのは、それから間もなくのことだった。それはレタスを手詰めにして輸送することだった。だが途中の手ちがいで水はずすかりとけ、レタスは腐り、大損害となった。そのころキヤルも母親の存在を知った。毎週ケイトの外出に後をつけた。そこで、母と子は名乗らあつた。父の損害をつぐなうとしたり、キヤルは、ケイトから資金を借り、農産物を買占めをして、大もうけした。そして父に差出すと、喜ぶどころか、「農民から盗んだ金と同じだ」と激怒した。押えがたに怒り、キヤルは兄アロンをケイトの店に連れ去った。現実の母の姿にふれたショックから、アロンは志願入隊し出征していった。アダムはその列車を見送りながら卒倒した。やがて半身不随の身を病床に横たえたアダムのもとにアロンの戦死の報がはいった。キヤルは自分のことをすべてアロンの恋人アブラ(ジュリー・ハリス)に告白した。そしてアブラのすすめ、卒倒のため口がきけぬアダムの前に罪の許しを乞うた。深くうなだれたキヤルをみつめるアダムの目には、はじめてあなたか愛情の光が浮かぶのだった。

ノーベル文学賞に輝く

原作者ジョン・スタインベック

1902年、カリフォルニア州サリナスに生まれた。スタンフォード大学の特別学生としておもに海洋生物学を学び、かたわら種多量な賞仕事をしながら創作に専念した。カリフォルニアの自然と人間は、スタインベックの作品に豊かな素材を提供し、海洋生物学の研修は「生物学的人間観」を育成して作品の骨格を形成することになる。処女作「黄金の林」(1917世紀イギリスの漁船「ヘンリー・モーガン」の伝記小説だが、次の連作短編集「天の牧場」ではカリフォルニア南部の谷間に住む一群の農民の單純奇妙な生活が描かれ、好評を博した。「トリーティヤ・フラッド」(1925でもモンテレーに住むバイサイノたちの暮らまなまな生活にキヤルとペーソスの心ももって描かれているが、その底には生命本能を中心とした生物本能への敬愛が流れている。また「二十日鼠と人間」(1927)にもむじむじの低い勇良な移動動物に対する愛情は同じく心情的発露である。こうした心情は人間の生命を守り護むものを賛美する反面、これを抑圧し踏みこむものに對する憤激の形をとることも必然であつて、彼は「ユリウツア」賞受賞の「怒りの葡萄」(1939)の文学的成果である。第二次大戦後、「エデンの東」(1955)では自分の家の歴史に原罪のメカニズムからの人間解放を望んだ意欲の長編を書き、ノーベル賞受賞の契機となつた。「われらが不満の冬」(1962)では初めて舞台を東部に主人公を知識人に設定して人間性の寓義解体を描き、新分野開拓に精進を傾けている。「二十日鼠と人間」(1962)「怒りの葡萄」(1962)「赤い仔馬」(1962)「エデンの東」(1962)などいすれも映画史にこの名作ばかりである。